



Title	碩園先生追悼録編輯日誌
Author(s)	
Citation	懷德. 1925, 2, p. 213-218
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88706
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

碩園先生追悼錄編輯日誌

九月四日 堂友會幹事會例會を開く、松山會長岡田玄碩太田勘兵衛平野得三三幹事出席。是より先き『懷德』第二號として碩園先生追悼錄を編するの議ありしも、其の資の足らざるに困みしが、幸に永田名譽會員より金八拾圓の寄附を仰ぐことを得、實行に着手することを決す。

同 八日 堂友會臨時幹事會を開く、松山會長岡田平野太田飯島溜三郎四幹事堂友會員野口幸雄出席碩園先生追悼錄を編するにつき、會長の名を以て、東京京都大阪神戸仙臺其他各地に在る先生の故舊知友諸氏に向け、寄稿依頼狀を發送することを決し、堂友野口幸雄平野中川幸三小沼量平今川せい五名に依頼狀認方を會長より委嘱せらる。

同十五日 追悼錄寄稿依頼狀を左の諸氏に向け發送す。野口會員主として認方を擔當し、平野中川今川三名之を助く。

岡野敬次郎、山之内一次、大久保利武、關谷貞

三郎、大谷正男、河内禮藏、岡田正之、市村瓊次郎、安井小太郎、島田鈞一、瀧清一、木崎愛吉、光吉元次郎、公爵松方巖、犬養毅、荒木寅三郎、狩野直喜、長尾甲、桑原隲藏、高瀬武次郎、鈴木虎雄、矢野仁一、小川琢治、小島祐馬、神田喜一郎、坂口昂、榊亮三郎、松本文三郎、藤代禎輔、三浦周行、吉澤義則、新村出、田島錦治、藤井乙男、渡邊勝、岡野養之助、原田棟一郎、土屋元作、村山龍平、上野精一、後醍院正六、愛甲兼達、永田仁助、今井貫一、小倉正恒、小西勝一、磯野惟秋、植田政藏、櫻井忠剛、北里闌、中井木菟麿、大江理三郎、高原操、池原鹿之助、山内貞郎、松方幸次郎、成田軍平、武内義雄、瀧川龜太郎、（次第不同）

同廿一日 碩園先生軼事採訪の爲め、財津講師岡田野口幸雄井上正美平野四堂友を伴ひ、南河内郡天見村相宅宰藏氏の古月樓を訪ひ、先生の遺墨を觀覽

し其の軼事を聴く。

同廿二日 木崎愛吉氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫。

同廿五日 左の諸氏に向け寄稿依頼狀を發送す。

認方、野口幸雄擔當す。

岡山源六、置鹽藤次郎、田中常憲、鈴木力、藤

澤章次郎、田中柳江、内田周平、幸田露伴、柳

原浩逸、（次第不同）

十月五日 北里闌氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫。

同 九日 小西宗次氏、平野幹事の手を経て玉稿

惠寄、井上正美淨寫。梅園良正、岡田壽一郎兩氏に

向け寄稿依頼狀發送、平野幹事認方擔當。

同十六日 野口幸雄、中川、碩園先生軼事採訪の

ため、山内愚僊氏を訪ひ、追憶談を聴取す。

同十八日 小沼岡田兩幹事の手によりて、追悼祭

并告別式紀事稿成る。

同十九日 安井小太郎氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫

同廿一日 磯野秋渚氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫。

同廿二日 河内禮藏氏後醍院良正氏玉稿惠寄、原

田棟一郎氏より岡幸七郎氏玉稿、小西勝一氏より堀

田蘇山氏玉稿傳寄。岡氏原稿、野口幸雄淨寫、河内

氏原稿、今川せい淨寫、堀田氏原稿、井上正美淨寫。

岡田幹事、成田軍平氏所藏碩園先生書明治天皇詠詞
幅を借出して堂に齎し來る。

同廿三日 牧瀬祐紀氏西村家より碩園先生家庭及
十三童詩寫眞を堂に齎し來らる。土屋元作氏玉稿惠

寄、野口幸雄淨寫。

同廿四日 懷德堂に於て追悼録挿入寫眞を撮影す

先生肖像（朝日新聞社より懷德堂に寄贈せられしも

の）十三童詩、懷德堂記念會設立趣意書手稿（大江

理三郎氏より懷德堂に寄贈せられしもの）明治天皇

詠詞、浪華留別詩五首、壙誌等なり。岡田幹事來りて

撮影の事を助く。撮影了りて後、岡田幹事寫手を伴

ひ松ヶ枝町及阿部野墓地に至り、先生舊邸并前老

松及墓地进行撮影せしむ。

後醍院正六氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫。

同廿五日 愛甲兼達氏玉稿惠寄。

同廿六日 岡山源六氏玉稿惠寄。

同廿七日 大江素天氏玉稿惠寄、井上正美淨寫。

同廿九日 内田周平氏より依頼狀に對し返書あり

今川せい淨寫。

同卅一日 中井木菟麿氏玉稿惠寄。

十一月一日 河内久彦氏來堂、同鄉人名簿齎來、其中に就て左の二十八氏を選び、追憶錄寄稿依頼狀を發送せんことを望まる。松山會長より依頼狀認方を小沼平野兩幹事、中川今川せい兩會員に委嘱せらる。

石堂民次郎、羽生左司馬、羽生俊助、河内時中、西村時直、西村時成、三原榮助、橋本保彦、肥後鐵二、日高實保、日高實容、平山武綱、平山友賢、平山武靖、最上宏、高崎能樹、玉利七二、中田時懋、八坂千尋、八坂正二、前田幸麿、鮫島鐵馬、笹川滿堯、鮫島宗也、弓削田精一、宮浦要、三原榮吉、三浦安能、（次第不同）

同 二日 松方公爵より依頼狀に對し返書あり、野口幸雄淨寫。田中常憲氏より玉稿惠寄、山本槽信淨寫。藤塚書記岡田山本三名京都狩野博士邸を訪ひ、追憶談を聴取し、藤塚書記筆記す。内村邦藏氏を訪ひしも、事あり、長尾甲氏を訪ひしも不在なりき。

同 三日 大谷正男氏より依頼狀に對し返書あり、野口幸雄淨寫。

同 五日 吉田銳雄氏羽生俊助氏より玉稿惠寄、吉田氏原稿、野口幸雄山本淨寫。羽生氏原稿、野口幸雄淨寫。

同 八日 狩野博士より追憶談筆記原稿を訂正して返附せらる。

左の卅二氏に向け、再び寄稿依頼狀を發送す。藤塚書記小沼幹事今川せい三名認方を分擔す。

大久保利武、岡田正之、島田鈞一、瀧精一、光吉元次郎、梅園良正、幸田露伴、柳原浩逸、荒木寅三郎、今井貫一、小倉正恒、植田政藏、櫻井忠剛、池原鹿之助、松方幸次郎、成田軍平、武内義雄、瀧川龜太郎、置鹽藤四郎、鈴木力、藤澤章次郎、岡田壽一郎、緒方竹虎、弓削田精一、高崎熊樹、谷山初七郎、有馬純彦、長野直彦、長尾甲、田島錦治、原田棟一郎、小西勝一、（次第不同）

同 九日 瀧川龜太郎氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫

同 十二日 笹川滿堯氏河内久彦氏玉稿惠寄。

同 十三日 岡田壽一郎氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫

同 十四日 肥後鐵二氏玉稿惠寄、山本淨寫。

同 十五日 岡野養之助氏玉稿惠寄、井上正美淨寫

同十八日 八板正二氏玉稿惠寄、

同十九日 谷山初七郎氏玉利七二氏玉稿惠寄、玉利氏原稿今川せい淨寫。

同二十日 有馬純彦氏鯨島宗也氏緒方竹虎氏平山武靖氏玉稿惠寄、鯨島緒方兩氏原稿井上正美淨寫、平山氏原稿野口幸雄淨寫。在北京吉田銳雄氏より松浦嘉三郎氏玉稿傳寄。

同廿一日 今井貫一氏玉稿惠寄。

同廿二日 松山會長中川山本兩名を伴ひて西村家に至り、碩園先生の遺著遺稿等を閲覽して、目錄を製せしむ。

西村時直氏玉稿惠寄、平野淨寫。坂本靜一氏、財津講師の手を経て玉稿惠寄、野口幸雄淨寫。梅園良正氏玉稿惠寄、中川幸三山内愚僊氏の追憶談を筆記淨書して提出。財津講師玉稿惠寄。

永田小倉兩名譽會員、追悼録印刷費として各金五十圓を寄附することを快諾せらる。

同廿三日 小沼幹事、追悼祭并告別式紀事を淨寫し了り提出す。

同廿四日 前田幸麿氏玉稿惠寄、野口幸雄淨寫。

同廿六日 藤澤章次郎氏、葛城彌兵衛氏玉稿惠寄今川せい淨寫。

同廿七日 武内義雄氏玉稿惠寄、今川せい淨寫。

同廿八日 在北京吉田銳雄氏より山口察常氏の玉稿を傳寄。

同廿九日 愛甲懷德堂記念會評議員上野同會理事兩氏、追悼録印刷費として各金五十圓を寄附することを快諾せらる。

十二月一日 稻束講師玉稿惠寄、

同 二日 松山教授玉稿惠寄。藤塚書記野口幸雄大朝社に村山社長を訪ひ、追憶談を聴取す。

同 三日 原田棟一郎氏玉稿惠寄、今川せい淨寫碩園先生講演『懷德堂の由來と將來』速記中川今川淨寫藤塚書記村山社長追悼談速記を淨書して提出。是より先き、稻束講師池田太陽日報社と約して追悼録印刷の事に當らしむ。豫め月の下旬までに功を竣るべきを約す。是日原稿一部を送附す。

同 四日 最上宏氏玉稿惠寄。堂友會幹事會開會、松山會長小沼岡田飯島太田四幹事、藤塚書記野口幸雄井上正美中川幸三山本槽信今川せい五堂友會

松山會長と稻束講師との間に協議せられたるものを
原案として、追悼録編輯印行の事に關し協議するこ
ころあり。

同 五日 飯島幹事、西村後醍院兩家を訪ひ、寄
稿者諸氏の身柄に關して聞き合すところあり。

同 六日 山本槽信、先生著述目錄稿を提出す。
野口幸雄、先生舊藏楚辭類書目を淨寫し了りて提出
す。

同 七日 藤塚書記山本兩名、荒木京都帝國大學
總長を其官邸に訪ひ、追憶談を聽かむことを望みし
も、別に語るべき程の材料もなしとて應せられざり
き。木崎愛吉土屋元作兩氏原稿印刷初校の希望あり
依りて原稿印刷を送附す。野口岡田平野、追悼本録
一頁より十六頁に至るまでの初校を擔當す。山本、
著述目錄を淨寫し了りて提出す。中田氏より依頼狀
に對し挨拶の返書あり。

同 八日 藤塚書記懷德堂聽講生等追悼本録一頁
より十六頁に至るまで再校す、土屋氏より初校返附
あり。堂友會員の編せる「先生の面影」成る、都の春
風水戸遊記は井上(正美)之を淨寫し、老嫗物語甲午

朝鮮陣南島偉功傳結論は中川幸三之を淨寫す。

同 九日 木崎氏より初校返附あり

同 十三日 追悼本録十七頁より四十八頁に至るま
での初校をなす、藤塚小沼今川岡田野口等勞を分つ。
同 十八日 追悼本録四十九頁より七十二頁に至る
までの初校をなす、藤塚岡田野口中川山本今川分擔
勞を執る。

同 十九日 追悼本録七十三頁より八十頁まで初校
を畢る、藤塚野口事に當る。太陽日報社期限を明年
正月十五日まで延期せむことを請ふ。

大正十四年一月十一日 追悼本録八十一頁より九
十六頁まで初校を畢る、野口校正の勞を執る。

同 十五日 追悼本録九十七頁より百十二頁までの
初校を畢る、藤塚書記勞を執る。太陽日報社更に期
限を一月月底まで延期せむことを請ふ。

同 二十日 野口平野兩人百十三頁より百四十四頁
までの初校をなす。

同 廿一日 藤塚書記平野野口今川百四十五頁より
百七十六頁に至るまでの初校をなす。

同 廿三日 平野今川兩人百六十一頁より百七十六

頁に至るまでの初校をなす。

同廿四日 平野山本藤塚今川百七十七頁より百九十二頁に至るまでを初校。

同廿六日 野口平野中川今川百九十三頁より二百八頁に至るまで初校。藤塚今川野口岡田追悼前録一頁より二十四頁に至るまで初校。

同廿七日 野口中川追悼前録二十五頁より三十二頁に至るまで初校。

同廿八日 藤塚書記追悼前録三十三頁より四十頁に至るまで初校。

同三十日 野口平野今川追悼前録四十一頁より五十二頁に至るまで、後記二百九頁より二百十六頁に至るまでを分擔校正す。

同卅一日 平野野口今川後記二百十七頁より二百頁に至るまでを校し、初校の業畢る。再校は全部稻塚講師擔當せられたり。

二月六日 製本成る。

追悼本録編次の順序は一に原稿到着の先後に従ひしも、寄稿者諸君の印刷初校を希望せられしものは、

自然其の序次後るゝことゝなれり。

本追悼録編印につきては、左の四氏及堂友有志の寄附に依りて、印刷費の大半を辨ずることを得たれば茲に廣く之を會員に報ずると共に、厚く諸氏の芳志を感謝す。

堂友會長 松山直藏

寄附金

金壹百參拾圓 懷德堂記念會理事長 永田仁助殿

金五拾圓 懷德堂記念會評議員 愛甲兼達殿

金五拾圓 懷德堂記念會理事 小倉正恒殿

金五拾圓 同 上野精一殿

金壹百圓 懷德堂堂友會員

小沼量平 岡田玄碩

野口幸雄 平野得三

飯島溜三郎 太田勘兵衛

井上正美 山本檜信

中川幸三 河野清光

今川せい